＜総括＞

出題数	現代文　1題・古文　1題・漢文　1題 (経営学部は現代文1題・古文1題) (海洋政策科学部文系科目重視型は現代文1題)	試験時間　１００分 (経営学部は８０分) (海洋政策科学部文系科目重視型は６０分)

本文は、生死をめぐる「ヒトの論理」と「人間の論理」という二重の論理を論じた文章。分量は4,600字程度。後半部の西田幾多郎の思想を紹介する部分は、やや読解に手間取ったかもしれない。

＜本文分析＞

大問番号	一
出　典 (作者)	「ておくれの現代社会論」(中島啓勝)
頻出度合 ・的中等	特になし
分　量 前年比較	分量(減少・やや減少・[変化なし]・やや増加・増加)
難　易 前年比較	難易(易化・・[変化なし]・やや難化・難化)

＜大問分析＞

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
一	評　論	問一	記述式	標　準	傍線部の内容を80字以内で説明する問題。 「概念としての『死』」という内容を的確に説明すること。
		問二	記述式	標　準	傍線部の内容を80字以内で説明する問題。 「より深い悩みの世界」という傍線部のニュアンスを的確に説明すること。
		問三	記述式	標　準	傍線部の内容を80字以内で説明する問題。 「サドンデス」や「ドント・ワナ・ダイ」という言葉のの内容をしっかり踏まえること。
		問四	記述式	標　準	本文全体の論旨を踏まえたうえで、傍線部の内容を160字以内で説明する問題。 「生きる論理」に関して、本文全体の趣旨をきちんと説明すること。
		問五	記述式	標　準	漢字問題。「災禍」「初発」「要請」「典型」「奥義」の５問。 ※問一～問三の80字、問四の160字は昨年と同じ。

※難易度は５段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

© 河合塾　2025年

＜学習対策＞

・意味段落に関わる設問を三つ出題した上で、最後に本文全体に関わる要旨説明型の設問を出題するという構成は、東京大学の一と同じ。
・長めの評論文を中心としてさまざまなジャンルの文章に接し、基本的な読解力を高めていくこと。
・文章の読解においては、まず、全体の趣旨を大きく把握することが肝要である。そのうえで、部分の内容を的確に読み取る力をつけていこう。
・また、答案作成においては、理解した事柄を簡潔・的確にまとめあげる力も養成しておかねばならない。その際、問四がそうであるように〈要約〉の練習が効果的である。

© 河合塾　2025 年

＜総括＞

出題数	現代文　1題・古文　1題・漢文　1題 (経営学部は現代文1題・古文1題) (海洋政策科学部文系科目重視型は現代文1題)	試験時間　１００分 (経営学部は８０分) (海洋政策科学部文系科目重視型は６０分)

・出典は日記だった。近年は、歴史書、作り物語、説話、日記、軍記、歌物語、説話、歌論と、有名出典という範囲内でジャンルは多岐にわたっており、今年もその流れにある。
・本文分量は昨年度に引き続き、神戸大学古文の標準的な1000字前後だった。
・設問数は6問から5問に復した。
・本文中に4首ほどの和歌が含まれており、うち1首は傍線を付して心情説明、引用された和歌は内容説明の要素として問われていた。和歌に関わる設問は長らく出題されておらず、昨年度は和歌の第四句の単純な現代語訳だったので、和歌に関わる設問の比重が高かったと言える。
・説明問題の分量の推移の直近五年は以下の通りで、今年も例年並み。
　21年度：3問（うち字数制限付きは2問で、50字以内・60字以内。あとは5字程度の抜き出し）
　22年度：3問（うち字数制限付きは2問で、50字以内・40字以内）
　23年度：2問（すべて字数制限付きで、50字以内・60字以内）
　24年度：2問（すべて字数制限付きで、50字以内・80字以内）
　25年度：2問（すべて字数制限付きで、50字以内・60字以内）
・例年通り文学史が客観式で出題された。

＜本文分析＞

大問番号	二
出　典 （作者）	『更級日記』（菅原孝標女）
頻出度合 ・的中等	出典は頻出
分　量 前年比較	分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）　約950字　（昨年約1040字）
難　易 前年比較	難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

© 河合塾　2025年

＜大問分析＞

大問	ジャンル	設　問	設問形式	難易度	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）
二	日記	問一	記述式	標　準	現代語訳の問題（４箇所）。22 年度にあった「分かりやすく」という条件が再び付された。 ①「いつしか」の訳出と、「いつしか」の直後に省略された内容の補充、「已然形＋ば」の訳出がポイント。 ②「誰かは…人のあらむ」の反語構文の訳出と、使役の対象の補充がポイント。 ③「世の中」の具体化と、「～げに」の訳出がポイント。 ④「ゆかしさ」、「おぼえ」の訳出と、「ずなりぬ」の文法的理解がポイント。
		問二	記述式	標　準	説明問題。和歌に込められた心情を五〇字以内で説明する。直前の記述を踏まえることがポイント。
		問三	記述式	標　準	説明問題。「いとど涙を添へまさる」について、作者がそのような感情を抱いたきっかけを、六〇字以内で説明する。直前に引用されている和歌を踏まえるが、古歌であるという注記がないので、解きづらいだろう。
		問四	記述式	やや易	文法問題。「たり」の運用（６箇所３種）。後続の付属語は助詞「ば・に」、助動詞「し」。
		問五	客観式	標　準	文学史の問題。作者が手に入れた可能性のある作品を、五つの選択肢から選ぶ。

※難易度は５段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

・文法や現代語訳の設問は定番であるので、指示語や接続語などの文脈をとらえつつ、文法や語法に留意した丁寧で正確な訳出を普段から心がけたい。
・記述式説明問題は、例年、各問 40～80 字程度で問われるので、古文学習の際には、その本文の要約を常に練習するように心がけるとよい。普段の訓練が効果を発揮するものである。
・文学史について、成立年代、ジャンル、作者など、基本的なものは押さえておきたい。

© 河合塾　2025 年

＜総括＞

出題数	現代文　1題･古文　1題･漢文　1題 (経営学部は現代文1題・古文1題) (海洋政策科学部文系科目重視型は現代文1題)	試験時間　100分 (経営学部は80分) (海洋政策科学部文系科目重視型は60分)

『隋書』酷吏伝にある崔弘度の伝記の出題。崔弘度が部下や一族に対して日頃から厳格な態度で接し、人々から畏怖されたという話で、読み取りやすい。設問数は5問、解答箇所は8で、昨年度より1問増えた。語の読みが3問、現代語訳が1問なのは昨年と変わらないが、書き下し文が昨年の2問から1問に減り、昨年はなかった指示内容を答える問題が1問出題された。また説明問題は昨年の1問から2問に増え、そのうち1問は例年通り字数制限があったが、もう1問は字数制限がなかった。書き下し文を問う傍線部は例年どおり白文であった。語の読みの傍線部は昨年は送り仮名がついていたが、今年は送り仮名が付いていなかった。現代語訳の傍線部は昨年は返り点が付いていたが、今年は白文であった。

＜本文分析＞

大問番号	三
出　典 (作者)	唐　魏徵『隋書』酷吏伝
頻出度合 ・的中等	稀
分　量 前年比較	分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）（昨年）141字→（本年）132字
難　易 前年比較	難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

＜大問分析＞

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）
三	史伝	問一	記述式	標　準	語の読み・書き下し文の問題。①再読文字「当（まさに～べし）」、②「嘗（かつて）」、③「安（いずくんぞ）」、④二重否定「莫不～（～ざるはなし）」の読み。
		問二	記述式	易	指示内容の問題。直前までの文脈から、仕えている者達が誰を恐れたのかを判断する。
		問三	記述式	標　準	理由説明の問題。崔弘度の発言と部下の行動をもとに、崔弘度が部下を罵った理由をまとめる。
		問四	記述式	やや難	現代語訳の問題。選択形「寧～、不～（むしろ～とも、～ず）」に注意して訳す。
		問五	記述式	やや難	内容説明の問題。崔弘度が部下と一族に対して取った行動をもとに、崔弘度が受けた称賛の内容をまとめるが、制限字数内に答えるには工夫が必要である。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

重要語句と句形の知識に習熟し、特に白文を読む力を身につけておくこと。問題文全体の構成を考えながら、文章の展開を正確に読み取る訓練を積んでおく必要がある。さらに説明問題の答案を制限字数内で簡潔に要領よくまとめる訓練もしておくこと。

© 河合塾　2025年